

地域包括支援センター坂下通信

認知症の人が住んでいる世界を理解するシリーズ⑥

認知症の人は、叱られたなどの出来事の記憶をなくしても、そのとき抱いた印象や感情だけが残っていることがあります。再び叱られたくないという感情が働くため失敗したことを隠したりごまかしたりします。



(現れ方の例)

夕食の後片付けはお父さんの仕事として食器洗いを手伝っていましたが最近になり、洗剤を使わなかったり手でサッと洗うだけになっています。

娘さんが「お父さん洗剤を使って洗って」と伝えますが、その後も手でサッと洗っています。娘さんは「洗剤を使ってって言ったよね」と感情的に口調を強め叱りました。お父さんは「洗剤をつけて洗った」と失敗をごまかそうとしています。



(対応のヒント)

介護者が思っていることは、たとえ口に出さなくても認知症の人は表情や態度から感じ取ることがあります。なんだかわからないけど怒っていて「怖い」から「嫌な人、うるさい人」にまた怒られるのではないかという不安や恐怖を感じ「怒られたくないからと、ごまかしたり隠したりします。

対応のポイントは「**ほめる・感謝する、同情、共感、謝る・演技する**」です。

なにがあっても、失敗でも、「よくできたね」「ありがとう」の言葉をまずは忘れずに伝えましょう。

話をよく聴き「そうですね」など相づちを打ち同じ気持ちであることを伝え、本人の気持ちを押し量り不安な気持ちや感情に共感するような言葉かけをしましょう。それが事実でなくても本人にとっては事実であるということが原則です。言い争ったり事実を教え込もうとしても難しいです。ウソでも本人が思っている事実を認める演技をする方が混乱も少なくすむこともあります。



地域包括支援センター坂下
春日井市神屋町1306-1

☎：93-1314

開所時間：月～金曜日 9:00～17:30

出前講座開催、福祉サービス等の



ご相談は 左記まで

担当：木根、飯田、戸田、永杉、辻本

地元のお元気さん



このコーナーでは、毎回地域で活動している団体やグループ、介護予防に取り組んでいる方などをご紹介します。



パッチワーク同好会



今月は櫛が丘団地集会所で行っている『パッチワーク同好会』を紹介します。20年程前に団地内で近所のお友達同士が自宅に集まり行っていました。その後『おしゃべりしながらできる場所があるといいね』という声があり毎週金曜日の午後1：00～5：00に集会所の和室を借りてパッチワークを行っています。



パッチワークの先生はいませんのでメンバーそれぞれが各自のペースで作りたい物を作るスタイルです。

会費はなく各自好きな材料を持ち込み『好きな事、好きな物』を制作しています。最近では写真のように着物をリメイクし洋服も作っています。制作のあいだに自宅にあるお茶やお菓子など『好きな物』を持ちよりおしゃべりに花が咲きます。



お隣の部屋ではシニアクラブけやき会麻雀もにぎやかに開催さ

メンバーより

『目が悪く見えない、手が思うように動かないと言わず興味がある方は金曜日に一度見に来て下さい。』



地域包括支援センターとは？

地域包括支援センターは、春日井市の委託により運営される高齢者に関する総合相談機関です。支援が必要な高齢者やその家族の状況に応じた各種の保健福祉サービスが総合的に受けられるよう、情報提供や関係機関との連絡調整などを行います。相談は無料です。お気軽にご相談ください。

